

令和5年度埼玉県地盤沈下対策調査専門委員会 議事要旨

日 時	令和5年10月26日(木) 14:00～15:13
場 所	環境部会議室(さいたま市浦和区高砂3丁目15-1)(オンライン併用)
委 員 名	佐藤委員長、長田委員、松原委員、八戸委員 ※徳永委員、守田委員は欠席
関係機関	さいたま市 1名

議題(1) 令和4年地盤沈下調査結果について

事務局より資料1、資料2を用いて内容を説明、調査結果、令和5年地盤沈下調査等に対し異論はなかった。質疑の概要は以下のとおり。

	質問・意見	説明・回答
1	(長田委員) 2cm以上の沈下はなかったということだが、全体としては昨年度よりも沈下傾向だと思われるがなぜか。	(事務局) 令和3年は令和2年比で隆起した点が増えていたので、その反動も考えられる。 (佐藤委員長) 国の対策要綱の適用に応じ、各県の測量結果を国土地理院で調整して数値が決定されるため、5mm程度の偏差はある。
2	(長田委員) 地下水位が上昇しているのに沈下量は増大している原因は何かわかるよう、長い目で見ておくことが必要だと考える。	(事務局) 御指摘のとおり長期的な視点での整理が必要と考える。今後も地盤沈下や地下水位の状況を整理するにあたっては、長期的な視点も含めて解釈したい。
3	(八戸委員) 水道用の地下水採取量が減っている原因は何か。人口減少か。	(事務局) 河川水を水源とする県営水道の利用増などが考えられる。 (佐藤委員長) 本県は人口減少に伴うとはまだ言えないと考える。
4	(長田委員) 沈下が集中している加須市の辺りは堤防の高さ測定等他にも測量していると考えられるので、水準測量の精度確認として利用したらどうか。	(事務局) 活用できるデータがあれば、適宜活用していきたい。

議題(2) その他

事務局より資料3を用いて内容を説明した。その他の議題はなし。質疑の概要は以下のとおり。

	質問・意見	説明・回答
1	(長田委員) 平成6、8年の渇水時にどの程度影響があったのか。	(事務局) 平成6年の最大沈下量は4.8cm、沈下面積も広範囲であった。
2	(長田委員) 渇水となっても2cmを超えるところが増える又は大きな変化はないという推測か。 (八戸委員) ハツ場ダムができて水利権が確定されたことを踏まえて、そこまで影響はないと考える。水利権確定によりどのように水利用が変わるか考えていくと今後の対策にもなる。	(事務局) 今年度の水不足の影響については、来年度の委員会で報告させていただく。 (佐藤委員長) 地下水採取量は天気が大きく依存することを常に考慮したい。